

発行所
 一般社団法人
 全日本漁港建設協会
 〒104-0032
 東京都中央区八丁堀3丁目25番10号
 JR八丁堀ビル5階
 電話番号 03(6661)1155(代表)
 FAX番号 03(6661)1166
 http://www.zengyoken.jp/
 発行兼編集人 森田 正博

令和元年度定時総会を開く

平成から令和

漁港建設業、次の目標へ

全日本漁港建設協会は、五月九日午後、東京都台東区の浅草ビューホテルで令和元年度定時総会を開催した。
 総会に先立ち第三十七回表彰式が執り行われ五十四名が受賞した。総会では、平成三十二年度事業報告、同収支決算、令和元年度事業計画、同収支予算、任期満了に伴う理事二十五名選任、監事二名選任、常勤役員の報酬額承認、借入金限度額承認の件を審議、全議案とも原案通り承認・可決した。
 総会終了後には同所で懇親会が開かれ、政界・官庁関係者・関係団体等多くの来賓を交へ和やかな懇談が繰り広げられた。



来賓挨拶をする長谷水産庁長官



令和元年度定時総会議長団
左から吉村文次氏、本間達郎氏、長谷川明正氏

では、会長および全国の支部長から推薦された五十四名に対し、表彰状と記念品が授与、贈呈された。(受賞者名簿・四画)
 この表彰は、協会並びに漁港建設業界、あるいは漁港建設業の発展のために多大の貢献をされた方を協会表彰規程に基づいて、その業績を称え、広く顕彰するもの。
 賞状等の授与贈呈後、会



挨拶する長野会長

長が祝辞を述べた。また、受賞者を代表して沖繩県支部長と那覇恵伸氏が謝辞を述べ、表彰式を終了した。
 なお、協会表彰開式の前に、同日水産庁で行われた令和元年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者十一名の紹介及び記念品の贈呈が行われた。(関連記事・二面)

定時総会

事業計画など承認

令和元年度定時総会では、冒頭長野会長が挨拶に立ち、次いで、長谷水産庁長官の来賓祝辞(後掲)を頂戴した。
 議長に新潟県の本間達郎支部長を選出して議事の審議に入り、平成三十二年事業報告、同収支決算、令和元年度事業計画、同収支予算、理事二十五名選任、監事二名選任、常勤役員の報酬額承認、借入金の限度額承認の件について審議、それぞれ原案通り承認、可決した。(令和元年度事業計画・四画)



理事会

正副会長、常務を選定

定時総会終了後、同ホテル別室で第三十五回理事会が開かれた。理事の互選により、

会長に長野章氏の再任、副会長に長谷川浩一氏(福岡支部長)、佐野茂樹氏(静岡県支部長)、寄神茂之氏(兵庫県支部長)、磯野宗氏(岡山県支部長)、米盛庄一郎氏(鹿児島支部長)、常務理事に森田正博氏(本部事務局長)の就任を決定(新役員名簿・四画)、また、団体賛助会員一社の入会が承認された。(入会会員一覧・三画)

誠吾氏(衆議院議員、漁港漁場漁村整備促進議員連盟幹事長)、金子恭之氏(衆議院議員、漁港漁場漁村整備促進議員連盟幹事)、横山信一氏(参議院議員)、富岡勉氏(衆議院議員)、吉野正芳氏(衆議院議員)、江島潔氏(参議院議員)、國場幸之助氏(衆議院議員)、西銘恒三郎氏(衆議院議員)、津島淳氏(衆議院議員)、石川昭正氏(衆議院議員)、宮澤博行氏(衆議院議員)、岩井茂樹氏(参議院議員)、金子万寿夫氏(衆議院議員)、藤丸敏氏(衆議院議員)、岩田和親氏(衆議院議員)、盛山正仁氏(衆議院議員)、中村裕之氏(衆議院議員)、宮路拓馬氏(衆議院議員)、三原朝彦氏(衆議院議員)、吉川ゆうみ氏(参議院議員)からご挨拶を頂戴した。
 続いて、大島顧問の首頭で乾杯し、終始和やかに歓談を繰り広げ、午後七時三十分、寄神茂之副会長(兵庫支部長)の中締めにより、盛会の内に終了した。



来賓を立礼で迎える正副会長

懇親会

引き続き、午後六時から同ホテル飛翔の間で懇親会が開かれ、御来賓の衛藤征士郎氏(衆議院議員、漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長)、中谷元氏(衆議院議員、漁港漁場漁村整備促進議員連盟副会長)、鈴木俊一氏(衆議院議員、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、漁港漁場漁村整備促進議員連盟副会長)、北村

長谷水産庁長官 祝辞(抄)

現在水産庁では水産改革を進めております。この水産改革を語る時にも申し上げたいのは、漁業をめぐる環境は大きく変わってきているということです。
 一つは、地球環境の変化、気候変動です。自然を相手にしている水産業・漁業にとって本当に大きな影響だと思っております。
 もう一つは、我が国は本来世界的にも有数の漁場であるがゆえに、周辺水域の外国漁船の操業が非常に活発になってきているということです。東シナ海などにおいては、昔からそういう話がありました。鮮の漁船が多数浮かびます。それだけではなく、太平洋側に目を移せば三陸・道東沖でも、二百海里線の公海域に多数の台湾船や中国船等の外国漁船の操業が非常に活発になっていきます。その日本の水域に、侵入を許さないために水産庁も漁業取締本部を設けて、海上保安庁と共に防衛線を築いている状況です。
 この二つ以外にも、日本が本格的な人口減少時代に入ったという事はやはり大きな話です。魚食民族である日本人が、これからも国内のマーケットを大事にするという事は当然のことです。しかしこれだけの人口減少がある中で、水産物の需要の見通しにはなかなか厳しいものがあります。一方で海外に目を転じれば、外国の人口はまだ増え続けており、それに加えて水産物の需要がものすごく伸びていることを意識する必要があります。そういう環境の変化を踏まえてもう一度、重要な優良漁場である日本の周辺水域の水産資源を大切にしたいということです。そのためには、外国との漁業の交渉をしっかりやり、外国船の操業の取り締まりも強化しながら、もう一度資源の底上げをするために、資源管理の取り組みを強化していきましょうと漁業者の方にお話しています。また、養殖関係についても、養殖関係者、漁業関係者、水産関係者一体となって進めていくためには、皆様のご支援とご理解ご協力が不可欠です。皆様方の一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

受賞者の喜びの声

「郷土を愛し地域に尽くす」をモットーに

大森 三四郎

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。



特に漁港漁場関係事業を主体とする施工者として、利用者である漁業者及び漁業関係者で

特に漁港漁場関係事業を主体とする施工者として、利用者である漁業者及び漁業関係者で

魅力ある建設業へと変革の手を緩めず努力していく

森山 豊治

この度、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。



この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

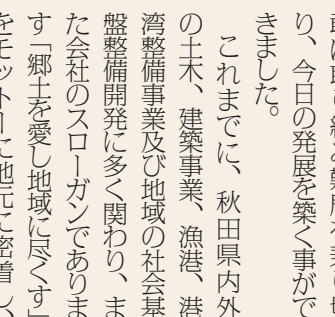
この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

者との対話を密に重ね、漁業へ携わる方々の喜ぶ姿を励みに取り組んで参りました。

しかしこの間には、様々な災害がございました。昭和五十八年の日本中部地震、平成二十三年の東日本大震災などによる国民の財産である港湾、漁港への打撃に対して復旧の過程におきまして積極果敢に取り組み難局を乗り越切り、今日の発展を築く事ができました。

この受賞を契機に、より一層社内一丸となって地域を守り、地元が必要とされる企業を目指し、安全第一に技術力の向上に努力していく所存でございます。

この受賞を契機に、より一層社内一丸となって地域を守り、地元が必要とされる企業を目指し、安全第一に技術力の向上に努力していく所存でございます。

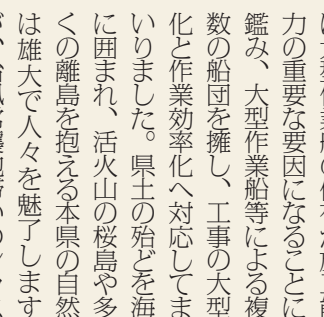


特に漁港漁場関係事業を主体とする施工者として、利用者である漁業者及び漁業関係者で

特に漁港漁場関係事業を主体とする施工者として、利用者である漁業者及び漁業関係者で

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。



この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

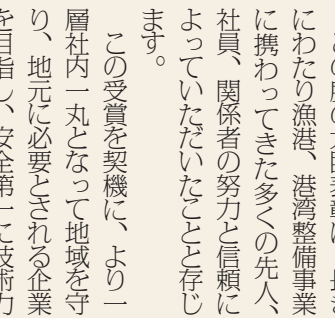
この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

えます地元商工会主催の「あわびの里づくり祭り」を開催しております。毎年参加者によるあわび稚貝放流をし、あわびオーナーを募り、漁協関係者と一丸となり資源確保と地域活性化に努め、国や県地方公共関係者の方々へ地元漁港の現状を視察頂く目的もござります。

この度は大臣表彰は、長きにわたり漁港、漁場整備事業に携わってきた多くの先人、社員、関係者の努力と信頼に

この受賞を契機に、より一層社内一丸となって地域を守り、地元が必要とされる企業を目指し、安全第一に技術力の向上に努力していく所存でございます。

この受賞を契機に、より一層社内一丸となって地域を守り、地元が必要とされる企業を目指し、安全第一に技術力の向上に努力していく所存でございます。

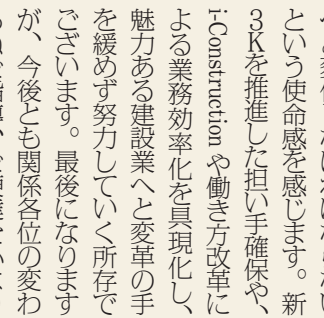


特に漁港漁場関係事業を主体とする施工者として、利用者である漁業者及び漁業関係者で

特に漁港漁場関係事業を主体とする施工者として、利用者である漁業者及び漁業関係者で

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。



この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

この度は、令和元年度漁港建設協会、並びに関係各位の皆様に對しまして心より感謝申し上げます。

FUSO magazine』のWEBマガジン

漁村情報発信ポータルサイト

「漁村情報発信ポータルサイト」が、三菱ふそうトラック・バス株式会社が隔月で発行する広報紙『FUSO magazine』とコラボレーション企画「一度は食べたい！漁港めし」を実施している。

この企画は、ポータルサイトに情報が集められている漁港や漁村で食べられるメニュー、通称「漁港めし」を「FUSO magazine」上で紹介するもの。2019年1・2月号の新潟漁協を皮切りに、3・4月号の坊勢漁協、5・6月号の大井川漁協、7・8月号の読谷村漁協の「漁港めし」が掲載・紹介されてお

10月号は岩手県大船渡の恋し浜帆立バードの掲載・紹介が予定されています。

紹介が予定されています。



水産基盤整備・維持管理に係る市町村支援のための連絡協議会

漁港・漁場等に関する団体で設立

多くの市町村で水産基盤整備事業が実施されているが、平成三十一年一月の水産フェアの結果によると、これら市町村のうち半数近くの市町村では一名の職員（管理職を除く）が水産基盤の整備・管理に関する業務を担当して

このため、全日本漁港建設協会を含む漁港・漁場等に関する五団体が結果として、水産基盤整備の実施等について市町村が直面する課題に対して必要な支援を実施できるようにすることを目的に、平成三十一年四月二十四日に「水産基盤整備・維持管理に

このため、全日本漁港建設協会を含む漁港・漁場等に関する五団体が結果として、水産基盤整備の実施等について市町村が直面する課題に対して必要な支援を実施できるようにすることを目的に、平成三十一年四月二十四日に「水産基盤整備・維持管理に

このため、全日本漁港建設協会を含む漁港・漁場等に関する五団体が結果として、水産基盤整備の実施等について市町村が直面する課題に対して必要な支援を実施できるようにすることを目的に、平成三十一年四月二十四日に「水産基盤整備・維持管理に

このため、全日本漁港建設協会を含む漁港・漁場等に関する五団体が結果として、水産基盤整備の実施等について市町村が直面する課題に対して必要な支援を実施できるようにすることを目的に、平成三十一年四月二十四日に「水産基盤整備・維持管理に

このため、全日本漁港建設協会を含む漁港・漁場等に関する五団体が結果として、水産基盤整備の実施等について市町村が直面する課題に対して必要な支援を実施できるようにすることを目的に、平成三十一年四月二十四日に「水産基盤整備・維持管理に

令和元年度漁港漁場関係事業

優良請負者表彰式

会員十一社が大臣・長官表彰を受賞

令和元年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰式が五月九日午後、農林水産省水産庁長官室で行われ、左記の当協会会員十一名が表彰状を授与された。

受賞者を代表して秋田県の大森建設(株) 大森三四郎氏(敬称略)が挨拶を述べた。

受賞者 (敬称略)

農林水産大臣表彰

- 大森建設株式会社(秋田県) 代表取締役 大森三四郎
- 大和開発株式会社(宮崎県) 代表取締役 境 一成
- 株式会社森山(清)組(鹿児島県) 代表取締役社長 森山豊治
- 水産庁長官表彰
- 眞壁建設株式会社(北海道) 代表取締役 山下洋司
- 秋原建設工業株式会社(北海道) 代表取締役社長 末吉繁政
- 村上建設株式会社(鹿児島県) 代表取締役 村上慎一郎
- 株式会社丸憲(沖縄県) 代表取締役社長 末吉繁政



お断り、大和開発株式会社の喜びの声は、次号掲載とさせていただきます。

CPDS認定

令和元年度漁港漁場関係工事積算基準講習会 今年度から適用の積算基準等を解説

協会は水産庁の後援を受け、一般社団法人水産土木建設技術センターと共催で、令和元年度漁港漁場関係工事積算基準講習会を東京、仙台、福岡、神戸の四会場で開催した。



来賓挨拶をする浅川整備課長

躍中の実務者へ最新の改訂点や内容の周知徹底を図るため、平成八年から毎年開催しているもので、入札参加資格審査や個人の入札の審査等の行政手続きの技術評価項目として活用される「土木施工管理技士会連合会」のCPDS（継続



漁港漁場整備部整備課 的野課長補佐

学習）認定講習会として実施された。四会場合計で二七四名が受講。そのうち約二十名が県・市町村職員等発注者の職員で、発注者・受注者が席を同じくして受講し、共通の認識を得られる非常に有意義な講習会となった。

ター資料に基づき詳細な解説と質疑応答があった。各講義の演題及び講師は次のとおり。

- ①「漁港漁場関係工事積算基準の改定について」水産庁漁港漁場整備部整備課 施工積算係長（施工積算班） 福村幸平
- ②「水産庁の漁港漁場整備に関する取組について」水産庁漁港漁場整備部整備課課長補佐（施工積算班） 的野賢司
- ③「漁港漁場整備の課題」一般社団法人水産土木建設技術センター理事長 宇賀神義宣
- ④「最近の資材単価・労務費・市場単価の動向等について」一般財団法人経済調査会土木第二
- ⑤「水産政策改革並びに働き方改革と漁港建設業」一般社団法人全日本漁港建設協会会長 長野 章

部港空港調査室長 三科正和（港空港調査室 中曾隆弘）



「漁港総合情報システム」を構築

全国への普及へ

協会では現在、「漁港総合情報システム」の構築・普及への取り組みを進めている。「作業船位置・回航情報システム」ならびに「気象海況情報システム」の総称。「漁港施設点検システム」は、スマートフォンで入力した漁港施設の点検結果をクラウドサーバに保存し、漁港管理者の災害点検や維持管理業務の一助とするものであり、また「作業船位置・回航情報システム」は、GPSで取得した作業船の位置情報やスケジュールをクラウドサーバに逐一保存し、災害復旧の迅速化や緊急物資輸送の効率化、回航費の適正化などに資するもの。さらに「気象海況情報システム」は、気象庁から取得した気象データを、クラウドサーバに蓄積し、必要に応じて上記の

二つのシステムにおいて活用していくもの。「漁港施設点検システム」は平成二十七年の秋田県・鳥取県を皮切りに、平成二十九年には長崎県・青森県・平成三十年には岩手県・高知県と運用が開始され、現在では合わせて六県に普及している。また「作業船位置・回航情報システム」は、平成二十八年に長崎県で、平成三十年に岩手県・高知県で、それぞれ運用が開始されている他、事業者単位で作業船の運航管理に活用されている導入例もある。

協会では、全国各地で説明会・講習会を開催し、これら



スマホで漁港施設の点検情報を登録（漁港施設点検システム）

協会では、全国各地で説明会・講習会を開催し、これら



地図上に表示される作業船の位置（作業船位置・回航情報システム）

このシステムの普及に取り組んでいる他、さらに利用者からのフィードバックを受けて、各システムの改良や機能追加も積極的に行っている。これからの漁港建設業の「働き方改革」への貢献が期待できるものとして、システム導入の検討をしてほしい。詳細や資料請求については、協会事務局まで。

http://www.zengyoken.jp/ system@zengyoken.jp

『プレキャストコンクリート製 残置型枠工法施工事例集』を発売

漁港プレキャスト工法研究会



漁港プレキャスト工法研究会では、プレキャストコンクリート製残置型枠工法施工事例集を発売した。

近年建設業界では、発注官庁である県市町村を含め、技術者不足及び労働力不足が叫ばれており、さらに週休二日確保等の働き方改革も求められている。その中で、工期の短縮、工事の安全性の確保等に効果を発揮するプレキャストコンクリート製残置型枠工法に、これまで以上の注目が集まっております。特に東日本大震災からの復旧工事において多くの採用事例がある。

この事例集は、プレキャストコンクリート製残置型枠工法が復旧工事以外の改良工事や機能保全工事において採用

新規入会賛助会員

第35回理事会

株式会社安部日鋼工業（岐阜県岐阜市）
代表取締役・井手口哲明

令和元年度事業計画

新たな漁港漁場整備長期計画に

対応した活動を進める

基本方針

東日本大震災が発生してから満八ヶ年が経過し、近年も熊本地震や平成三十年七月豪雨などの災害が頻発している。政府は、防災のための重要インフラ等の機能維持、国民経済・生活を支える重要なインフラ等の機能維持の観点から、特に緊急に実施すべき対策として、平成三十年十二月十四日に「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」を閣議決定し、令和元年度水産基盤整備事業予算においても防災・減災、国土強靱化のための緊急対策に係る予算が確保された。当協会では引き続き、効率的かつ安全な施工法の活用を促すなど、国並びに地方公共団体と協働しつつ、発災時の復旧・復興の加速化並びに防災・減災対策

に貢献していく。平成二十七年に策定した漁港建設の将来ビジョンでは、漁港建設が維持継続する条件を、適切な漁港関係事業予算の確保、新たな事業分野を持った長期計画、若年後継者確保のための適切な利潤を確保できる入札契約制度及び新たな漁港建設技術の開発の四つとしているところである。また、「作業船位置・回航情報システム」や「漁港施設点検システム」などから成る「漁港総合情報システム」の機能拡充並びに普及拡大を図り、ICT技術により会員の業務効率化を図る。これら活動により、漁港建設の将来ビジョンの実現に向けて全力で取り組み、安全で魅力溢れる郷土の実現に資する諸般の社会貢献活動を得て積極的に展開する。

新役員名簿

五月九日の令和元年度定時総会において、次の方々が役員に選出されました。

Table with columns for positions (会長, 副会長, 常務, 理事) and names of members across various regions.

新水産庁長官は山口氏に

七月八日付で水産庁長官長谷成人氏が退任し、前水産庁次長の山口英彰氏が後任として就任した。山口氏は東大法学部卒後、昭和六十年農林水産省に入省した。官房総括審議官、水産庁次長を歴任している。福岡県出身。五十七歳。また、水産庁次長には前増殖推進部長の保科正樹氏が就任した。

第37回協会表彰受賞者名簿

◎表彰規定第6条関係

- ▽与那嶺恵伸(沖縄県支部長、(株)國場組執行役員専務)
▽林浩一郎(山形県支部長、(株)遠藤博(前本部技術委員、(株)福津組専務取締役)
▽酒井秀世(福井県支部事務局長、(株)伏見光暁(広島県支部長、(株)伏見光組代表取締役)

- ▽野野正林(青森県、(株)牧野代表取締役)
▽山口建設(岩手県、(株)山口建設(岩手県、(株)山口建設)
▽石川建設工業(福島県、(株)石川建設工業)
▽長谷川一也(東京都、三宅島建設工業)
代表取締役(会長)、▽樋元健良(兵庫県、青木マリン(株)代表取締役社長)
▽木下辰男(鳥取県、(株)木下建設代表取締役)
▽杉山昌隆(山口県、太陽産業(株)代表取締役)
▽濱野尚則(福岡県、(株)不動テトラ九州支店常務執行役員支店長)
▽今村音博(長崎県、(株)今村組代表取締役)
▽福田昌隆(長崎県、(株)長崎西部建設代表取締役)
▽座波建設(沖縄県、(株)太名嘉組(沖縄県))

- ▽岩手県、(株)小澤組)
▽来海昭一(岩手県、東洋建設(株))
▽加藤仁(宮城県、津田海運(株))
▽加賀谷久(秋田県、三和興業(株))
▽正木弘之(茨城県、常総開発工業(株))
▽茨城県、(株)岡部工務店)
▽和田茂(茨城県、(株)秋山工務店)
▽益子栄作(茨城県、(株)益子栄作)
▽平澤頭(茨城県、菅原建設(株))
▽白田和裕(神奈川県、(株)鈴木組)
▽本橋誠之(静岡県、(株)大坪建設)
▽大石義則(長崎県、(株)藤沢義則)
▽下寺寿(長崎県、(株)大坪建設)
▽大石義則(長崎県、(株)藤沢義則)
▽大森和弘(大分県、(株)菅組)
▽阿部春喜(大分県、(株)菅組)
▽村岡直樹(宮城県、(株)長谷川組)
▽増山誠(鹿児島県、(株)増山誠)
▽池田康夫(沖縄県、(株)池田康夫)
▽高良光博(沖縄県、(株)池田康夫)
▽又吉幸男(沖縄県、(株)太名嘉組)



◎表彰規定第4条関係(優良会員)
◎表彰規定第5条関係(優良従業員)
◎表彰規定第5条関係(優良従業員)
▽長崎典彦(北海道、萩原建設工業(株))
▽阿部浩(北海道、小針土建(株))
▽藤本昇(青森県、(株)脇川建設工業)
▽石鉢文範(青森県、(株)脇川建設工業)

◎協会の行事予定

- 関東・東海地区連絡協議会 事務局局長会議 1・9・5 静岡県
○北海道・東北地区連絡協議会 事務局局長会議 1・9・5 福島県
○九州・沖縄地区連絡協議会 技術委員会 1・9・5 福島県
○中国・四国地区連絡協議会 支部長会・事務局局長会議 1・10・31 東京都
○第87回運営委員会 1・12・5 東京都

協会の人事異動

- 四月二十五日付
○熊本県支部
▽退任(支部長) 外本省三
▽就任(支部長) 田中秀征
六月十三日付
○島根県支部
▽退任(事務局長) 高橋光夫
▽就任(事務局長) 力石三男
七月二十六日付
○本部
▽退職 尾形宏美

記事の訂正とお詫び

五月九日付「会報第一二八号」二面の第三十三回理事會・第三十四回理事會の記事中、誤りがございました。中段右の写真「監査報告する池本監事」は誤り、正しくは「監査報告する池内監事」でございます。関係の皆様には大変ご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、謹んで訂正させていただきます。